

# フォレストネット第4回レポート原稿 「情報モラルの授業について」

アサンプション国際中学校高等学校 岡本弘之

小学校・中学校・高校を問わず、児童生徒のネットやスマホ利用が問題となり、情報モラル教育の必要性が言われています。私は情報科の教員としてこの情報モラルの授業に早くから取り組んできました。今回はその経験をふまえた実践のヒントを紹介します。

## 【 最初の頃の失敗 】

最初の頃は教科書のような知識を、講義形式で一方向的に教員が話す形式で授業をしていました。でもこの授業は進めていくにつれて生徒の頭が下がっていったのを覚えています。生徒にしてみれば「〇〇してはいけない」、「〇〇は危ない」など授業というよりお説教のように感じたのかもしれませんが。もちろん一方的にしゃべったことをプリントに書き込む授業だったので「眠かったのかな？」と思います。

## 【 自分で興味ある内容を調べさせる 】

失敗の翌年は CEC（一般社団法人日本教育情報科振興会）が提供する「ネット社会の歩き方」（<http://www2.japet.or.jp/net-walk/>）という Web サイトを使って授業をしました。



「ネット社会の歩き方」では校種に応じて、さまざまなトラブルの事例と対策が紹介されており、多くの事例の中から自分で興味をもったテーマを選ばせ、その内容や対策についてワークシートに記入する授業に切り替えました。この授業は成功で、生徒は夢中になって（ワークシートに記入するのも忘れるほど）、いろいろな事例を見ていました。ネットトラブルは日々新しいものが登場していきます。そういったときに事例や対策が書かれている Web サイトを知っておくことは生徒にとって大切だと思います。

## 【 自分の経験をもとに話し合いをさせる 】

高校生の授業では、自分たちが経験した使いこなし術、トラブル事例を付箋に書かせて、グループで話し合い発表させる授業も実施しています。例えば使いこなし術では「メールやメッセージの文字だけでは誤解を受けやすいので、絵文字で感情を表現するようにしている」など、経験を共有する中での学びがありました。

## 【 標語やポスターで表現させる 】

最近では情報モラルの知識をインプットさせる授業デザインでなくて、標語やポスター・プレゼンテーションで情報モラルの知識をアウトプットさせることを目的にインプットさせる授業を行うようになりました。

例えば情報モラル標語やポスター作りの授業では、「標語・ポスターを作ろう」ということを授業の目標におき、そのために先ほどの「ネット社会の歩き方」で関係するテーマを調べさせるという感じです。

勤務校では生徒が作った情報モラル標語を、毎年 IPA（独立行政法人情報処理推進機構）が主催する「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」

（<https://www.ipa.go.jp/security/event/hyogo/>）に応募しています。外部のコンクールに応募することで賞品を目指そうなど生徒のモチベーションはあがります。

またポスター制作も本格的なものではなく、PowerPoint のスライドを使って標語、その説明、フリーのイラストを組み合わせる形で 30 分程度で制作させています。勤務校では夏休み前に生徒玄関に掲示し、情報モラル啓発の一助としています。



## 【 まとめ 】

十数年取り組んでみて情報モラルの授業のコツは、アウトプットを目標にインプットさせる授業デザインだと私は思います。各先生方がすべてオリジナルな教材を作るのではなく、ここで紹介したような既存のコンテンツをうまく使えば、負担も少なくて済みます。ここで紹介したワークシートは私の Web サイト「情報科の授業アイデア」

（<http://www.okamon.jp>）でも紹介しています。こちらも自由に使ってみてください。